

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

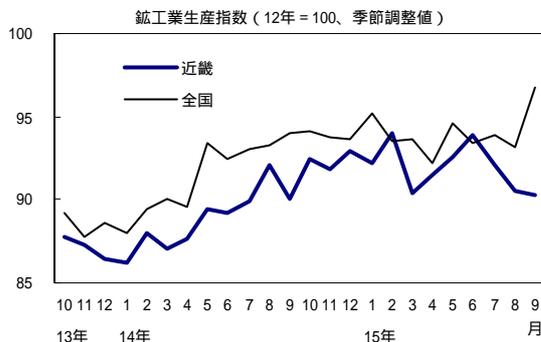
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 8 月）	今回（平成 15 年 11 月）	
景況判断	緩やかな持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが続いている	
住宅建設	減少	増加	
雇用情勢	依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、7月にガスタービンが、8月には一般用蒸気タービンが、それぞれ反動減となったことから、4四半期ぶりに減少した。化学は、8月にポリプロピレンなどが減少したことから、3四半期ぶりに減少した。電気機械は、7月にリチウムイオン蓄電池などにより増加したが、8月は変圧器、冷蔵庫などが減少、期を通してみれば緩やかな増加となった。食料品・たばこは、7、8月と清涼飲料などが減少したことにより、2四半期連続で減少している。電子部品・デバイス、8月に固定コンデンサ、液晶素子等の伸びから前月比で2けたの増加となり、四半期としても高い伸びとなった。



(備考) 平成 15 年 9 月の近畿は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

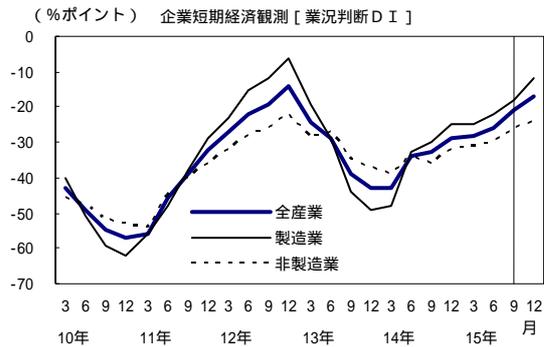
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
一般機械	15.0	2.3	9.3	9.5	8.7
化学	12.8	0.6	7.8	4.6	13.2
電気機械	10.1	6.1	1.6	7.8	4.3
食料品・たばこ	8.1	3.7	3.3	4.5	37.0
電子部品・デバイス	7.9	5.7	15.7	14.2	14.2
鉱工業	100.0	0.5	1.8	1.6	1.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

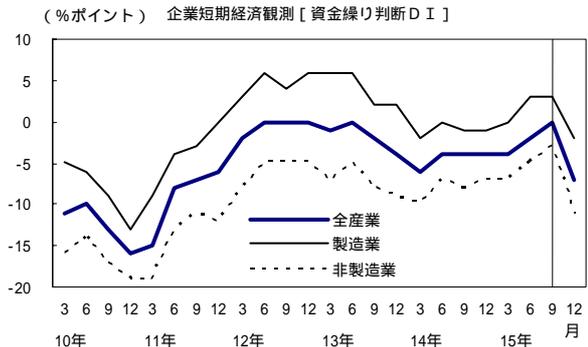
2. 7～9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

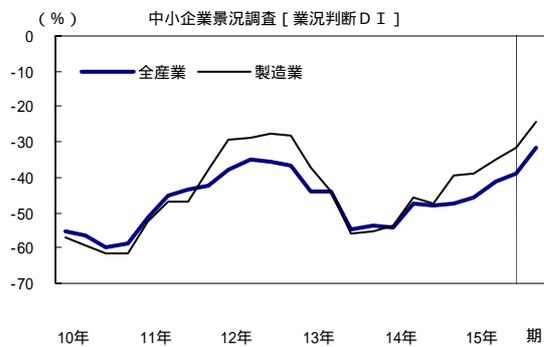
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「今年は前年に比べて引き合い件数が増えているのに、確定受注率が低くなっている。海外市場への依存も高まっているので、円高傾向も不安材料となっている (電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

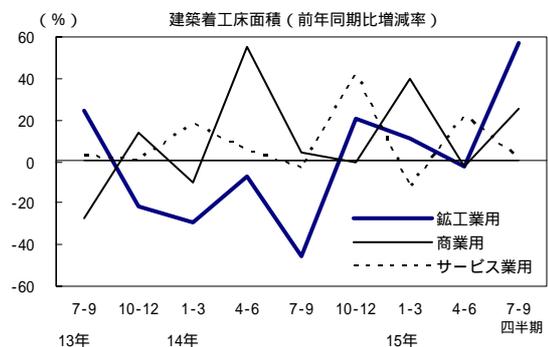
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	11.8	3.5( 0.8)
製造業	15.1	8.4( 1.1)
非製造業	9.2	0.1( 0.6)

(備考) ( )は前回 (6月) 調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

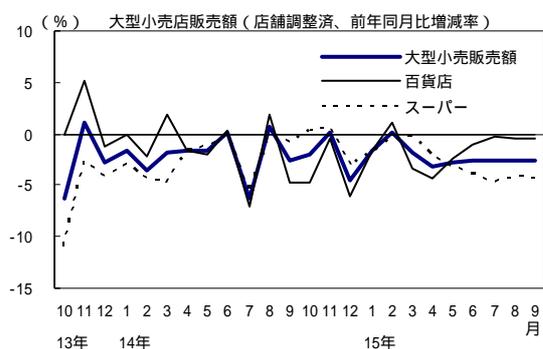
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は、前月の中元商戦の前倒しの反動から飲食料品が減少し全体でも前年割れとなった。8月には主力の衣料品が天候不順の影響を受け不振であり、9月は、プロ野球の優勝セールの際に盛り上がりも一部にみられたが、総じてみれば、7か月連続のマイナスとなった。

スーパーは、7～9月まで、3か月連続ですべての商品分野が前年割れとなり、10か月連続のマイナスとなった。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「季節の変わり目で婦人服が売れる時期であるが、思ったより枚数が出ない。ヒット商品がないのが一番の大きな原因である(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

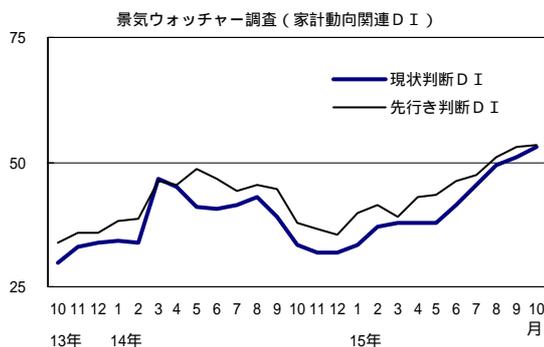
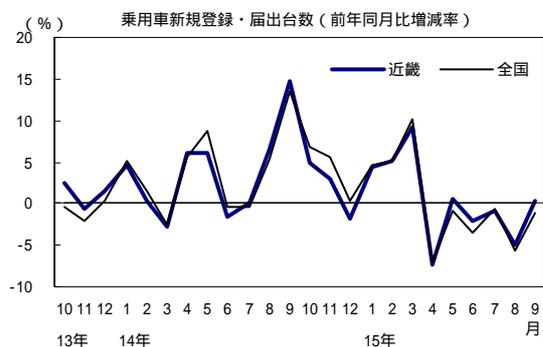


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.4	1.2	2.9	2.6
百貨店	4.0	1.6	2.5	0.3
スーパー	0.9	0.9	3.1	4.4
乗用車	1.9	6.9	2.8	1.4
景気ウォッチャー	32.4	36.1	38.9	48.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

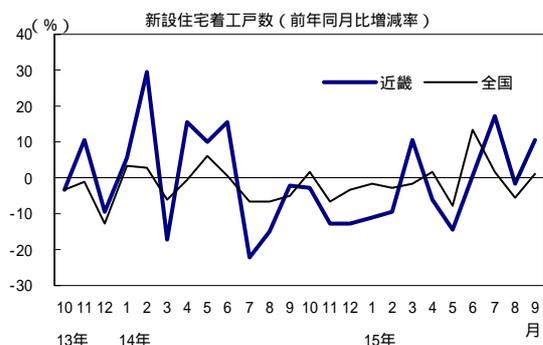
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が大きく増加し、持家も2四半期連続で増加したことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

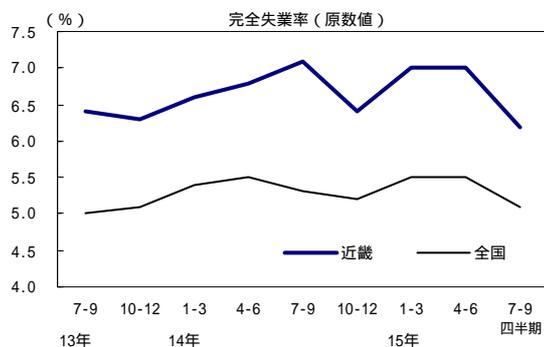
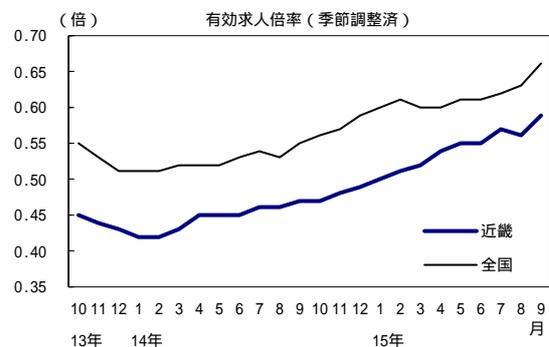


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

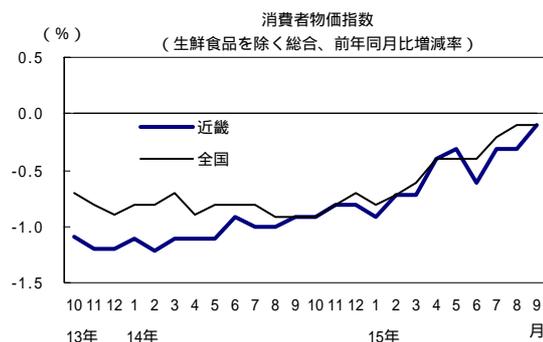
「正社員の採用を抑制しているためか、派遣での求人依頼が最近特に増えている。ただ、求職者の数が極端に少なくなっており、マッチングに苦慮している(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数 (前年比)	1,031 14.9	999 7.8	1,000 7.6	899 17.1	336 16.0
負債総額 (前年比)	7,116 23.1	7,805 8.7	6,117 9.5	7,630 45.5	3,740 1.6



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・在阪球団の優勝セールなどで消費が部分的に喚起されているが、小売業者からの協賛値下げ圧力や、セール後の売上減などによるマイナスの影響が大きい(その他非製造業[衣服卸])

<先行き>

・比較的大きなスペースの求人広告が増加しており、今後の本格的回復の前兆と考えられることから、先行きに期待できる(新聞社[求人広告])

